資料1

荒尾市における道の駅について

1. 荒尾市の現状と課題
   『人口』『農業』『漁業』『商業』『工業』『観光』
2. 新・第5次荒尾市総合計画における道の駅の位置付け
3. 道の駅の概要
4. 地域のポテンシャルを活かす
5. 荒尾市における道の駅整備の目的
6. 本委員会の役割

1. 荒尾市内の現状と課題 『人口』

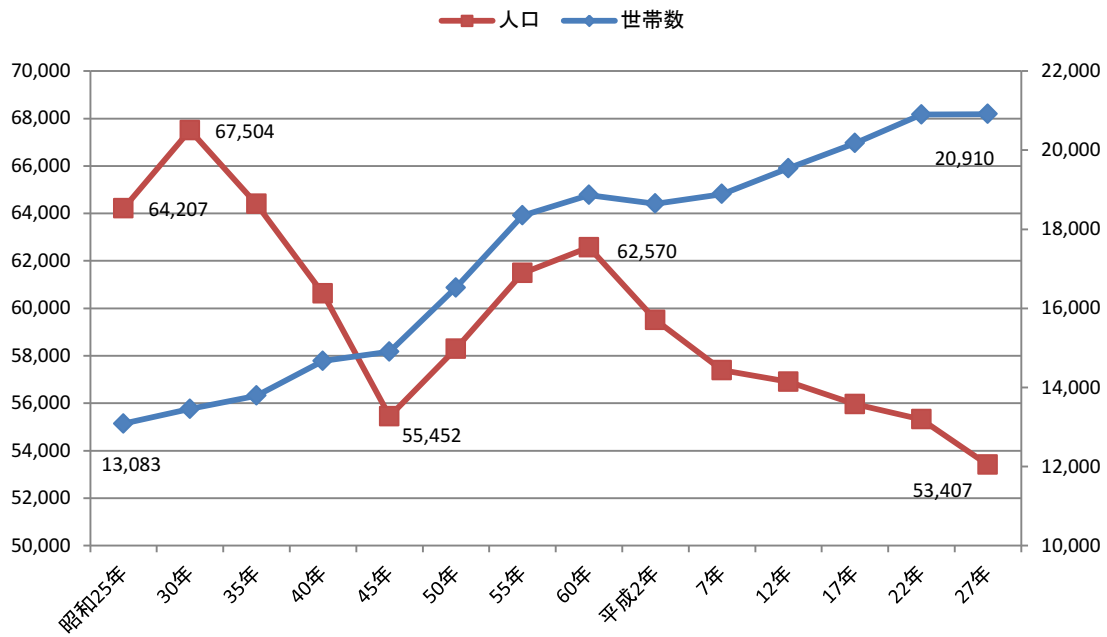
●本市の人口は、昭和60年から微減の傾向。

●H30.3月現在の人口は、53,098人（住民基本台帳人口より）。

●**2060年には36,003人**(※国立社会保障・人口問題研究所推計による。)にまで減少することが予測されている。

☆交流人口の増加を図り、移住・定住への展開を促進していく必要がある。

※図表：総人口の推移　　国勢調査より（編入前の清里村人口は対象外）

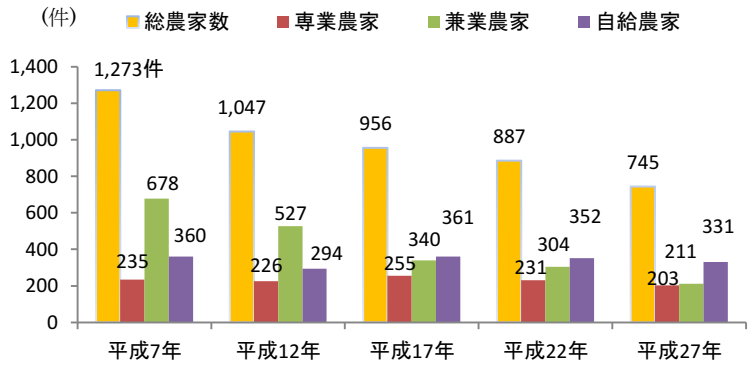


1. 荒尾市内の現状と課題 『農業』

●20年間継続して農家が減少。現在も高齢化が進み、更なる減少が予想される。

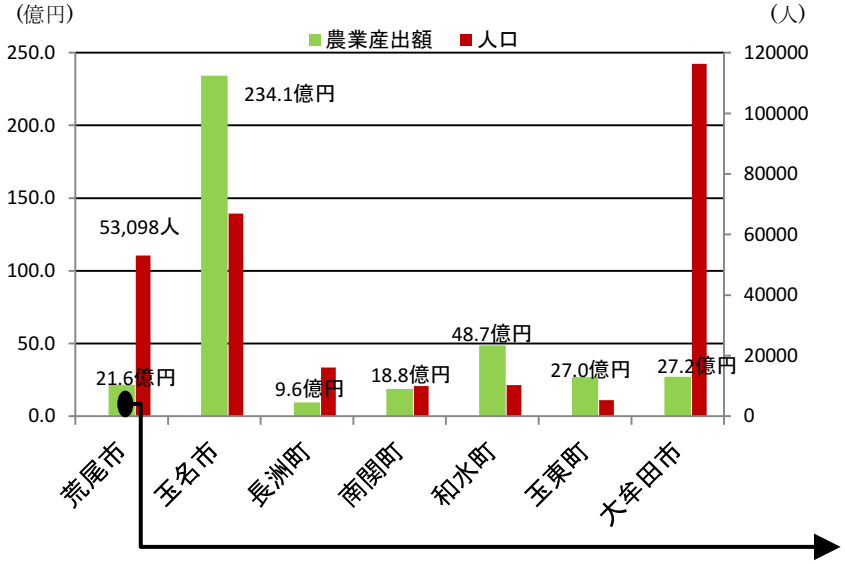
●産炭地域として栄えてきたため、近隣市町と比較しても、農家の人口に対する割合や農業生産額が非常に少ない。

※図表：市内農業従事者の推移　農業ｾﾝｻｽより

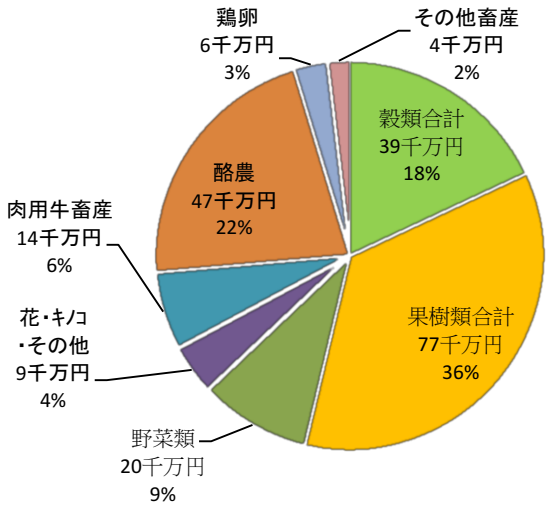


☆新たな担い手の確保と意欲的な農地利用の促進、新規作物の導入等、農業生産の安定化を図ることが必要。

※図表：平成28年度の玉名地域管内（2市4町）、大牟田市における農業生産額
農林水産省 平成28年度市町村別農業産出額（推計）より



※図表：荒尾市農業産出額（推計）内訳



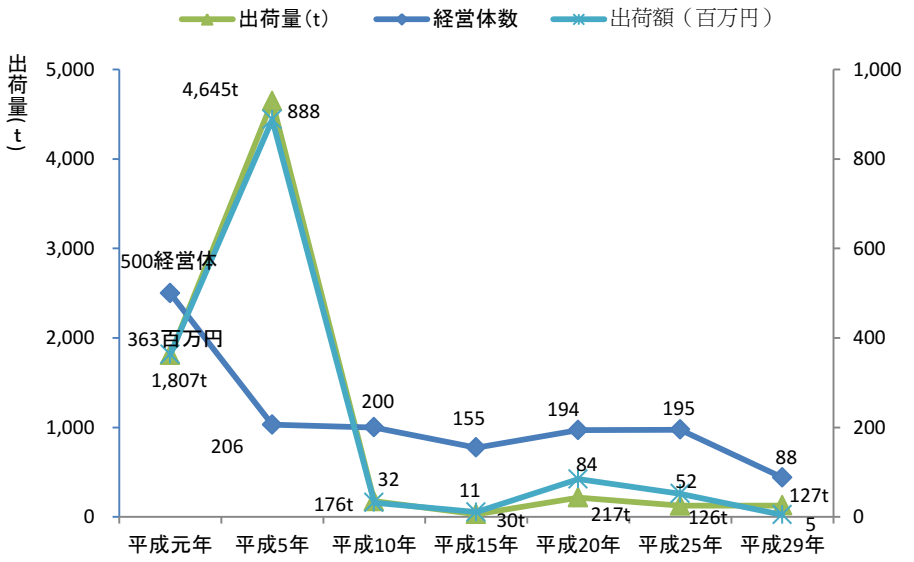
1. 荒尾市内の現状と課題 『漁業』

●漁場の悪化や漁業者の高齢化等により、本市漁業の中心を担う、のり養殖やアサリの採貝業の経営体が減少。

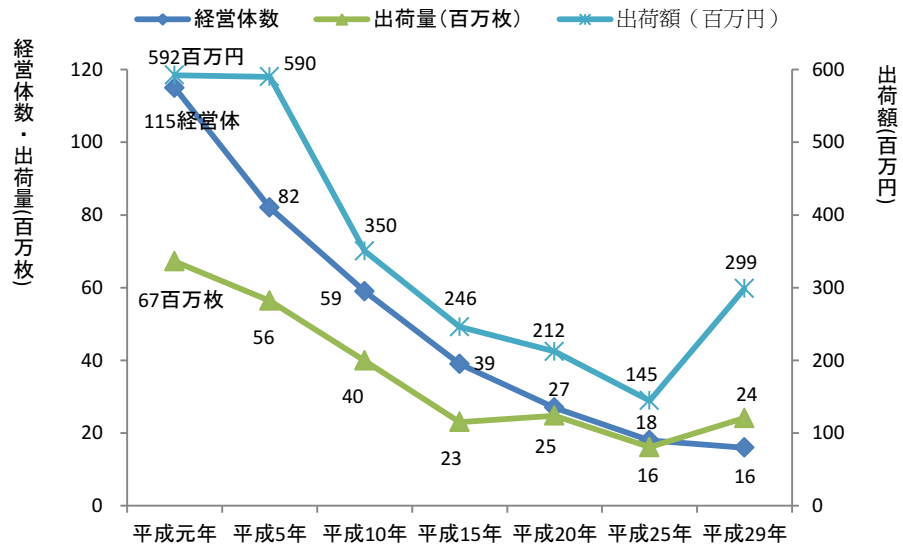
☆新たな特産品として注目されつつあるマジャクをはじめとした、有明海の恵みの幸を守るため、環境保護と新たな担い手の確保が急がれる。

図表：アサリ及びのりの生産　　実績荒尾市内漁協調べより

≪アサリ採貝≫



≪のり養殖業≫



1. 荒尾市内の現状と課題 『商業』『工業』

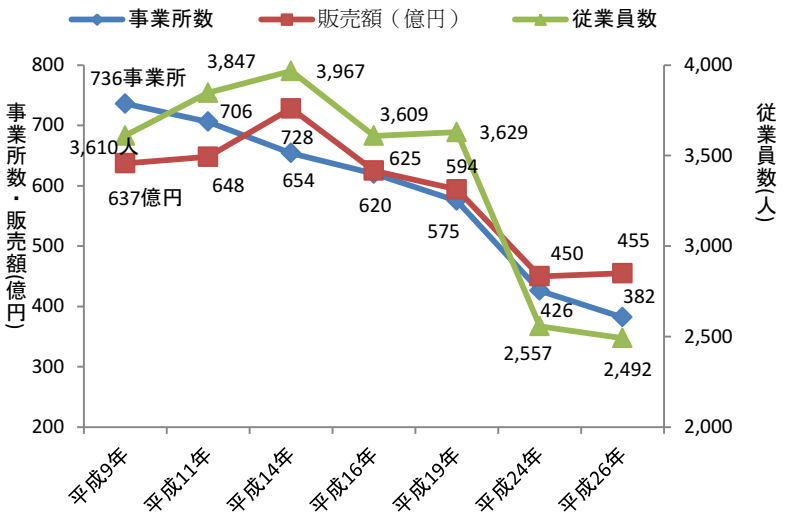
●炭鉱の閉山や経済不況の影響により、荒尾駅周辺をはじめとした小売店の数が減少した。

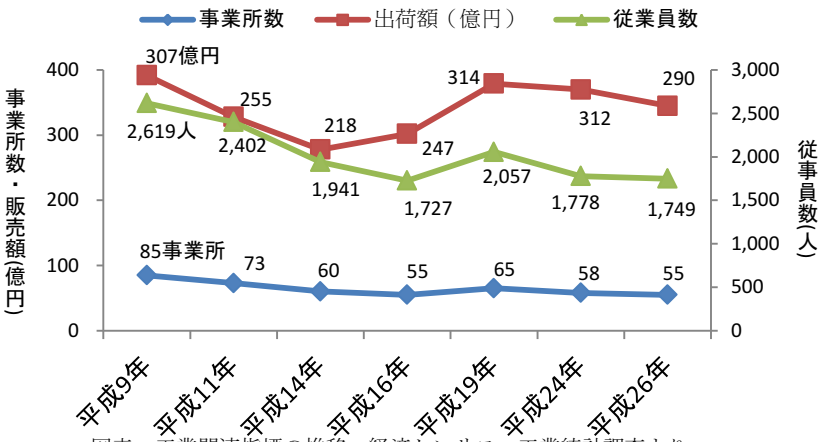
☆大型商業施設等と既存商店が共存共栄できる環境づくりに向けた取り組みが必要

●工業においては、H16年度以降は企業誘致が進み、ほぼ横ばいの状況となっている。

☆中小企業の経営安定化を支援していくとともに、新規企業の誘致や新規産業の創出に向けた取り組みが必要。

図表：商業関連指標の推移経済センサス、　商業統計調査より





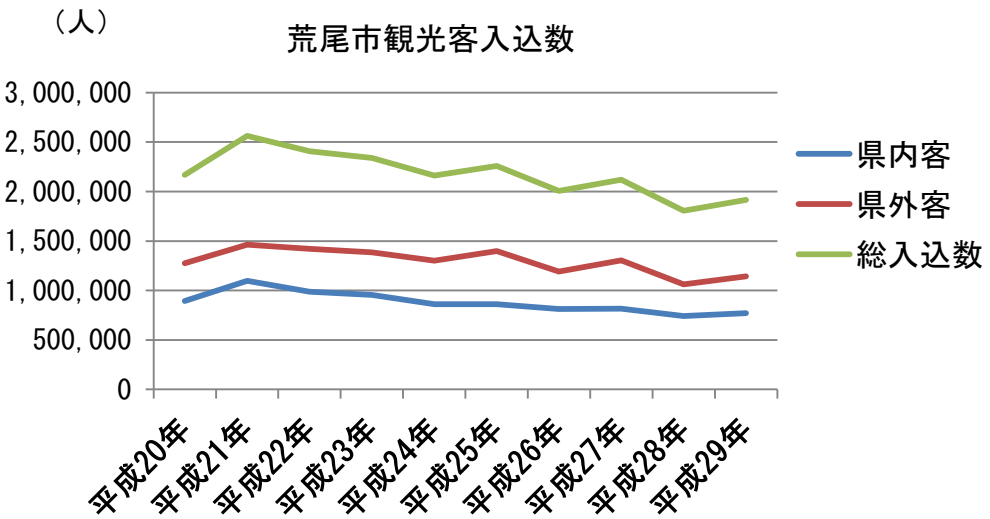
図表：工業関連指標の推移　経済センサス、工業統計調査より

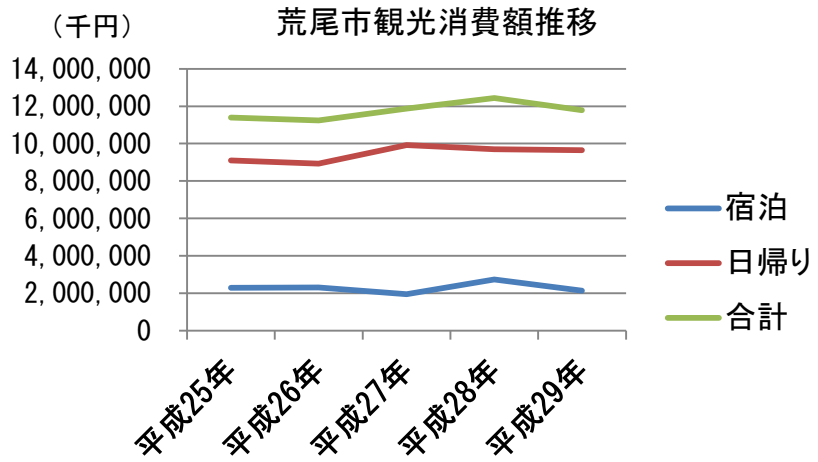
1. 荒尾市内の現状と課題 『観光』

●グリーンランド・万田坑・荒尾干潟・宮崎兄弟生家などの豊富な観光資源があり、年間約200万人の観光客がある。

●観光資源が点在し、十分なつながりをもっていないためのアピール不足や、本市の魅力や情報を一元的に取扱い、発信するシティセールスを行える場所が少ない。

☆地域ならではの自然、歴史、食などをじっくり味わう体験型・滞在型の観光が近年では主流になりつつあり、本市においても、このようなニーズに合わせ、「ラムサール条約湿地のある街」、「炭鉱のあった街」ならではの人々の生活や食文化、荒尾にしかない自然などにふれる機会をつくり、観光客と地域の人々との交流を図る。





熊本県観光統計調査より

2. 新・第5次荒尾市総合計画における道の駅の位置づけ

道の駅に関するこれまでの経緯

①H23.12　荒尾の産品などの販売促進に関する可能性調査業務実施
荒尾市の産品（農水産物・工芸品を含む）の現状と課題、それらの販売の可能性と方向性について検討

②H25.2～H28.10　庁内プロジェクトチームによる「道の駅」の整備検討
平山地区などにおける整備検討　⇒　有明海沿岸道路の延伸発表（H27.3）に伴い、競馬場跡地（現南新地土地区画整理事業地内）を候補地の一つとして追加検討

③H29.4～H30.3　道の駅あらお（仮称）基礎調査の実施
南新地地区における「道の駅」設置の潜在的な可能性について調査

④H30.2　新・第5次荒尾市総合計画（改訂版）を定める
総合計画の施策「地域産業の競争力強化」における重点施策として、「特産品販売・観光交流拠点の形成」を明記

～　新・第5次総合計画　～

本市の総合的かつ計画的なまちづくりを推進するための主要な施策を示す、市の最上位計画

※※※新・第5次総合計画における荒尾市の将来像※※※

世界基準の自然と文化が、人のつながりや誇りを紡ぐ、希望と志にあふれるまち

『しあわせ　創生　あらお』

【重点戦略】特産品販売・観光交流拠点の形成

有明海沿岸道路の整備が見込まれる南新地地区に、民間企業等と連携し、農水産物や特産品等の販売、観光情報の発信等を行う「道の駅」の整備を推進することで、農林水産業をはじめとした地域経済の活性化や、交流拡大を図る。

3. 道の駅の概要

1. 道の駅とは

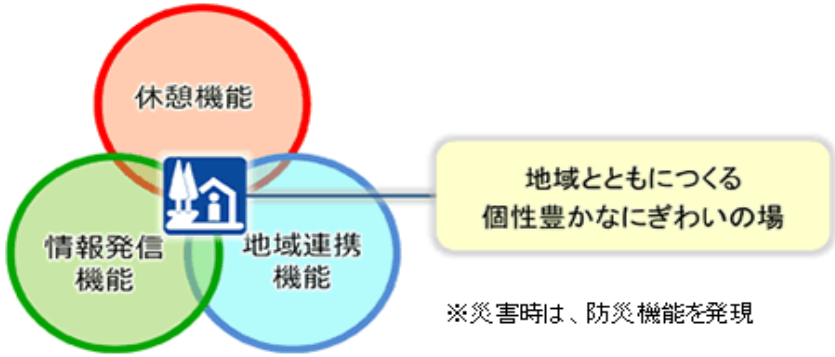
- 道路利用者のための「休憩機能」
- 道路利用者・地域の方々のための「情報発信機能」
- 活力ある地域づくりを行うための「地域の連携機能」

→ 3つの機能 → **道の駅**

目的
・道路利用者への安全で快適な道路環境の提供
・地域の振興に寄与

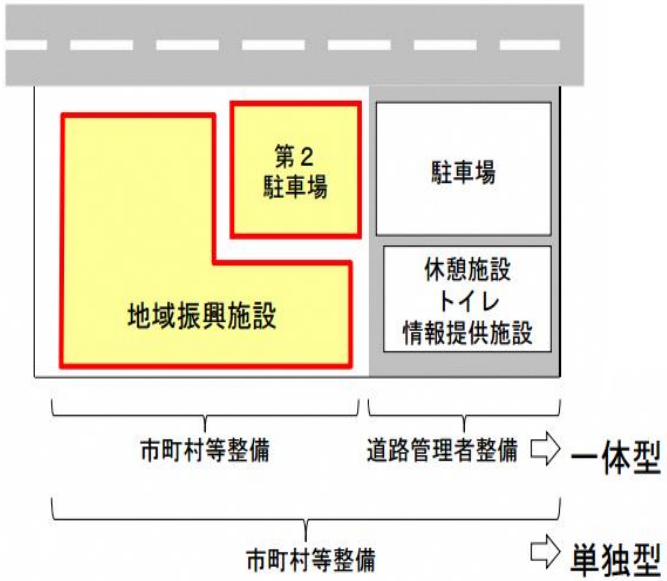
2. 基本コンセプト

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



※災害時は、防災機能を発現

3. 整備手法



4. 全国道の駅の数

H5.4
全国103箇所

→

H30.4
全国1，145箇所　県内31箇所

4. 地域のポテンシャルを活かす

①豊富な地域資源

≪山の資源≫●小岱山●小代焼

≪里の資源≫●荒尾梨●みかん●米

≪海の資源≫●荒尾干潟●有明海の夕陽●雲仙岳の眺望●アサリ●有明のり●マジャク

≪街の資源≫●万田坑及び専用鉄道敷跡●宮崎兄弟の生家●グリーンランド

②良好な立地条件

●北は福岡県大牟田市、西は有明海を隔てて長崎県や佐賀県と接する。

●九州の大都市圏である福岡都市圏や熊本都市圏に1時間程度で移動が可能。

●鉄道は、JR荒尾駅から福岡方面や熊本方面に運行。

●大牟田駅からは、西鉄電車も利用可能。

●港湾関係では、三池港や長洲港が近接し長崎方面へのフェリーが運航。

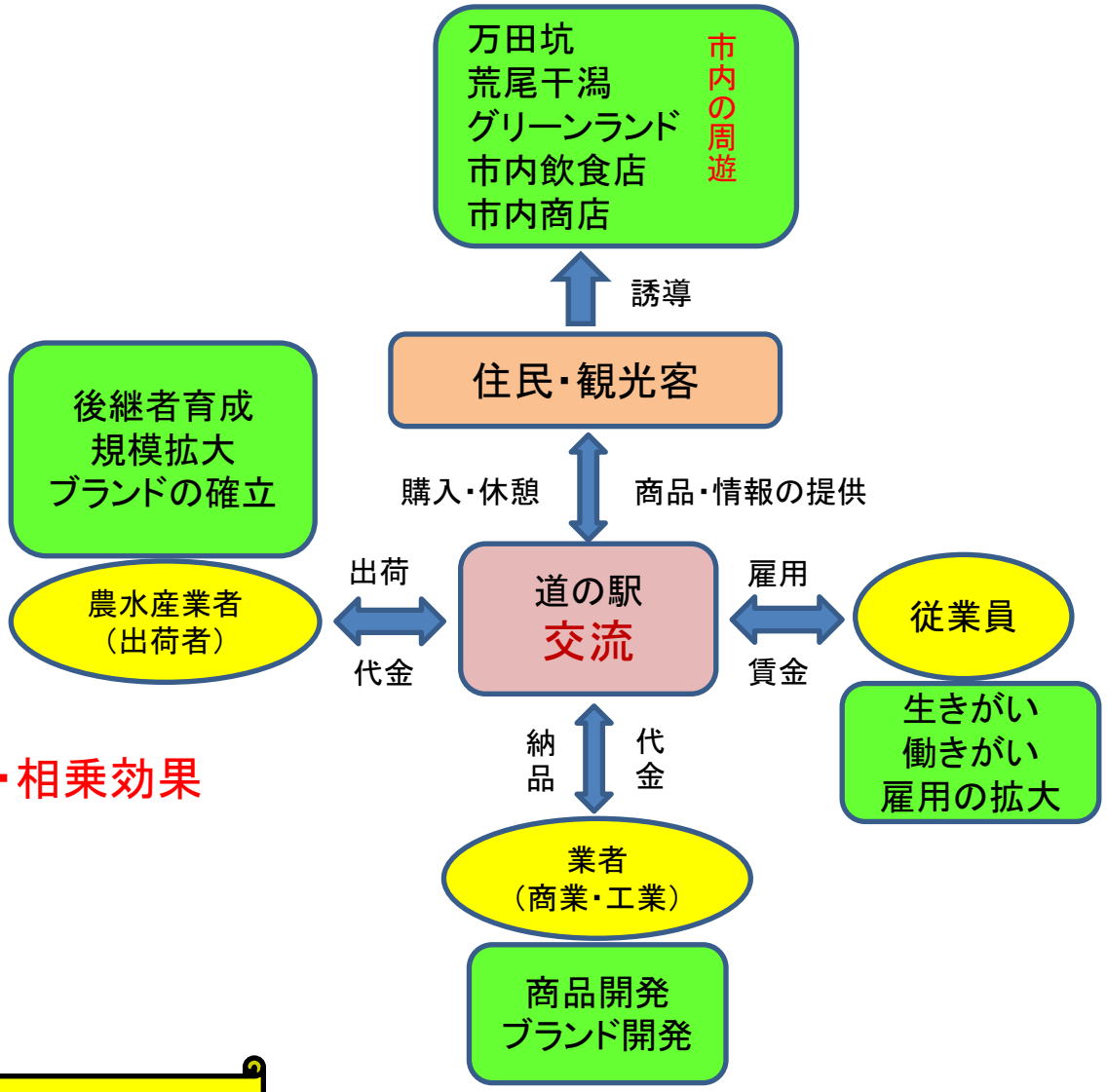
●高速道路では、九州自動車道の南関IC、菊水ICが最寄のインターチェンジ。

●地域高規格道路である有明海沿岸道路の延伸と、本市へのインターチェンジ整備が実現により、佐賀方面へのアクセスも非常に良い環境となり、更なる利便性の向上が期待される。

これら地域ポテンシャルを活かしたい
⇒　道の駅を整備することで活かしていきたい

5. 荒尾市における道の駅整備の目的

- ○農水産業者の所得向上
- ○農水産業者の担い手の確保と育成
- ○交流人口の拡大
- ○雇用の創出
- ○にぎわいの場の創出
- ○新たな観光交流拠点の形成
- ○新たな防災拠点の形成



※道の駅の整備により、様々な波及効果・相乗効果が見込まれます。

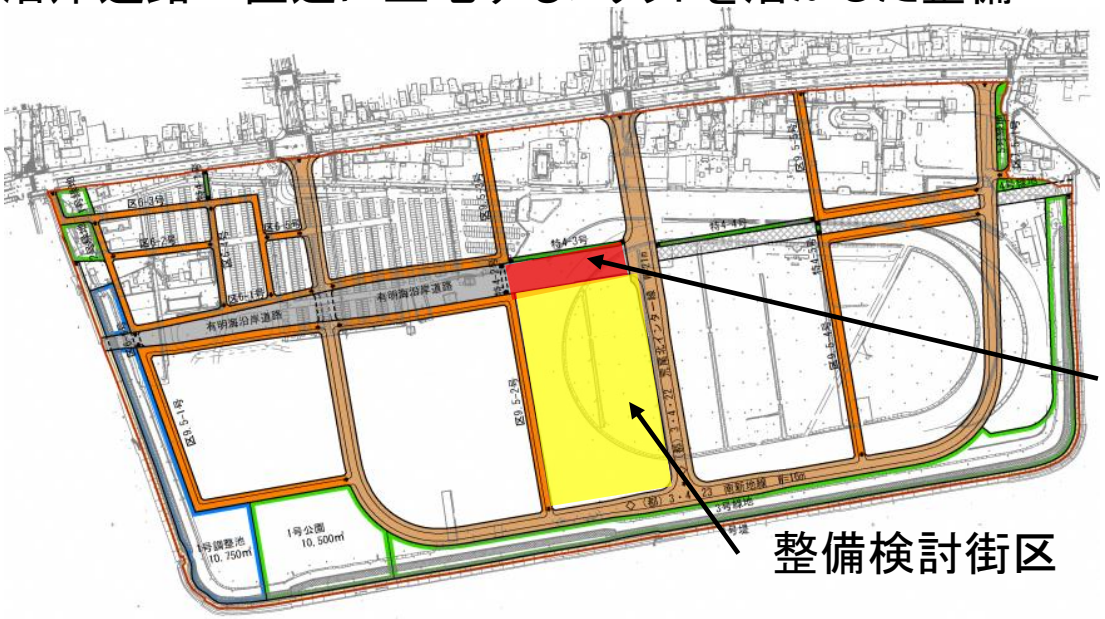
地域経済の活性化

6. 本委員会の役割

整備検討街区のポイント

〇有明海・雲仙への眺めによるリフレッシュ効果を創出

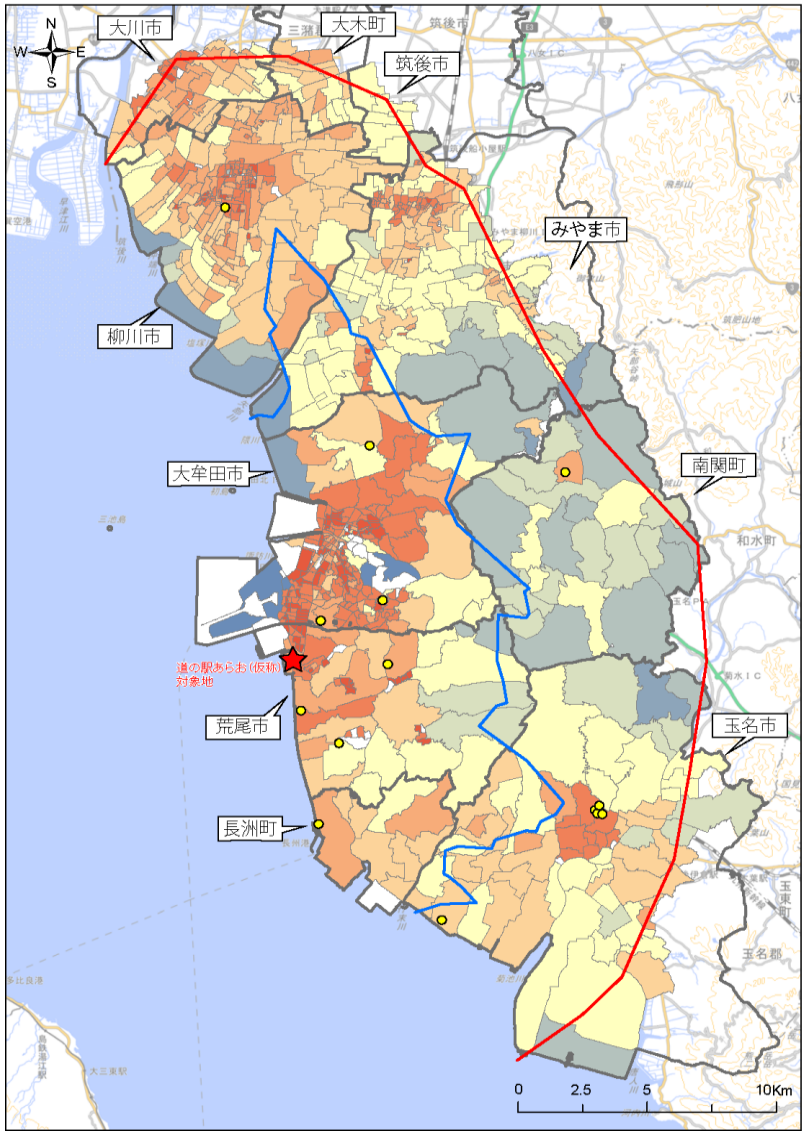
〇有明海沿岸道路IC直近に立地するメリットを活かした整備



基本構想（H30）	基本計画（H31）	（H32以降）
〇基本構想 現状と課題、また、『道の駅』を整備することによって得られる効果等について共通認識を持ち、上記整備検討街区のポイントを踏まえ、新たに整備される『荒尾らしい道の駅』の方向性や整備コンセプト、考えられる機能等について取りまとめを行う。	〇基本計画 各施設の機能・規模・収支計画・施設配置計画・概算費用の算出・整備スケジュール・運営手法の決定等、全体と各施設における詳細な計画を策定する。	〇基本設計 〇実施設計 〇施工　　など

参考資料

20分圏・30分圏（車移動）での商圏人口



（単位：人）

市町村	総人口	利用圏域人口	
		30分圏域	20分圏域
荒尾市	53,407	53,407	53,407
玉名市	66,782	60,613	16,565
長洲町	15,889	15,889	15,889
南関町	9,786	9,786	1,115
大牟田市	117,360	117,360	117,002
みやま市	38,139	33,889	8,042
柳川市	67,777	67,777	11,294
大川市	34,838	17,471	0
大木町	14,176	5,669	0
筑後市	48,339	2,203	0
合計	466,493	384,064	223,314

市町村境界（30分圏）

利用圏域
- 30分圏
- 20分圏
- 温浴施設（30分圏）

人口密度（30分圏の町丁目）
人／ｋ㎡
- 10,000 －
- 5,000 － 9,999
- 2,000 － 4,999
- 1,000 － 1,999
- 500 － 999
- 200 － 499
- 100 － 199
- 50 － 99
- 25 － 49
- 1－24
- 0

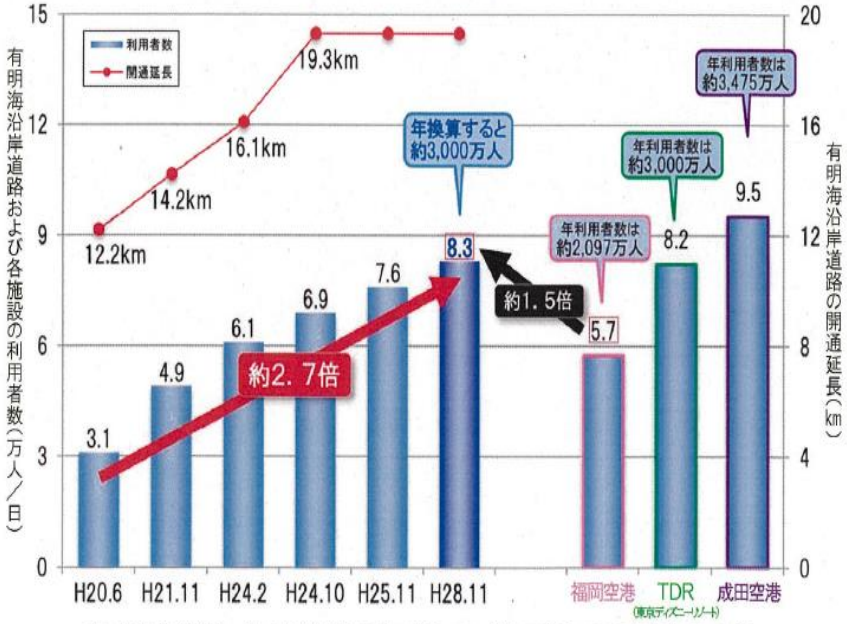
出典：H29基礎調査

有明海沿岸道路の状況

参考資料

1日あたり約8万3千人が日々利用する大幹線道路

平成20年3月の初開通以降、利用者は大幅に増加し、9年後の現在では1日あたり約8万3千人が利用しています。年換算すると約3，000万人。これは、福岡空港の年間利用者数（約2，097万人/年）※の約1．5倍にあたります。



■有明海沿岸道路の利用者数と開通延長の推移、その他主要施設の利用者数（比較参考）

有明海沿岸道路開通に伴い観光入込客数増

世界遺産「三池炭鉱」や伝統芸能「宝満神社奉納能楽」等、有明海沿岸道路の沿線地域には、豊かな観光資源が多数存在します。

有明海沿岸道路の開通とともに、観光入込客数は増加しており、現在、沿線地域では、約1，100万人を超える観光客が来訪しています。

出典：福岡県国道事務所HP